

情報を公開するホームページのアドレス及び内容

情報を公開するホームページのアドレス		<a href="http://from-east.org/">http://from-east.org/</a>
研修機関情報 (法人情報)	①法人名・名称・住所  ②代表者名 ③事業担当理事 ④その他の事業概要	<p>公益財団法人 共生地域創造財団 〒982-0003 所在地 宮城県仙台市太白区郡山5-6-2 電話番号 022-748-6336</p> <p>代表者名 代表理事 奥田知志 研修担当理事 渡部孝之</p> <p>事業概要 (1)災害被害者支援事業 (2)生活困窮者支援事業 (3)上記の目的に類する事業を行う団体に対する助成事業 (4)その他「生命をもっとも大切にすることを原点に、人と人が助け合い、補い合う共生の地域作りをとおして、支援を必要とする人々の自立に寄与すること」の目的を達成するに必要な事業</p>
研修機関情報 ☆	①事業所名称・住所  ②講義・演習会場情報  ③理念 ④学則 ⑤研修施設・設備	<p>・公益財団法人 共生地域創造財団 宮城事務所 所在地 宮城県仙台市太白区郡山5-6-2 第1会場:〒981-1226 名取市植松字錦田44-1 (株)ユースポーツライフ TEL:022-36-9232・FAX:0223-384-7756 第二会場:〒989-2301 亶理町逢隈中泉字沼添75-1 株式会社ユースポーツライフ・ユースポ亶理デイトレセンター TEL(0223)36-9232 FAX(0223)36-9233</p> <p>・生命をもっとも大切にすることを原点に、人と人が助け合い、 支え合い、補い合う共生の地域作りを行う。</p> <p>下部にありますので、ご覧ください。</p> <p>研修施設、設備 ・座学会場:①ユースポ名取・②亶理デイトレセンター ・演習会場:①ユースポ名取・②亶理デイトレセンター</p> <p>○福祉用具としてベッドおよび関連一式(車いす、杖、歩行器、PTイレ 浴槽設備他、入浴用具)</p>
研修事業情報 研修の概要	①研修対象  ②スケジュール  ③定員・指導者数  ④申し込み方法	<p>・亶理町・山元町・岩沼市に居住の方。 ・年齢制限はなし。</p> <p>研修のスケジュール 期間平成26年11月14日～平成26年12月17日 日程 座学:11/14,15,17,18,21,22,12/11 演習:11/22,23,25,27,28,29,12/1,3,5,7,8 時間数:講義94時間 演習36時間</p> <p>定員(集合研修、実習)と指導者数 定員:20名 指導者数:19名(アシスタントを含む)</p> <p>研修受講までの流れ(募集、申し込み) 募集期間:2014年10月10日～10月31日まで 申し込み:担当事務局 佐藤真希子まで電話で申し込み</p>

	⑤費用	電話番号:0223-36-9232 費用:6,069円(テキスト代)+受講料+3,931円=10,000円			
	⑥特徴	補講費:1日5,000円は自己負担 受講者の皆様へ: 本研修は高齢者等が安心して介護サービスを受けられるよう、 基本的な知識及び具体的な技術について習得し、そのことによ って地域において、良質なホームヘルプサービスを提供 できるようにすることを目指しています。 原則として全日程参加できる方の申し込みを受け付けます。			
課程責任者	課程編成責任者名:高橋朝弥・佐藤真希子				
研修カリキュラム	テキスト	科目	講師	アシスタント	
		開校式・オリエンテーション	高橋(朝)		
		自習してみよう!	佐藤		
	1-序章	1.多様なサービスの理解(イ) 2.介護職の仕事内容や働く現場の理解(ロ)	窪田		
	1-第1章	第1節 人権と尊厳を支える介護(イ) 第2節 自立に向けた介護(ロ)	中村		
	1-第2章	第1節 介護職の役割、専門性と多種職との連携(イ) 第2節 介護従事者の倫理(ロ) 第3節 介護職における安全の確保とリスクマネジメント(ハ) 第4節 介護職員の安全衛生(ニ)	岩佐		
	1-第3章	第1節 介護保険制度(イ) 第3節 障害者総合支援制度及びその他の制度(ハ)	渡邊		
	1-第4章	第2節 医療との連携とリハビリテーション	鈴木 (通信)		
	2-第1章	第1節 介護におけるコミュニケーション(イ) 第2節 介護におけるチームのコミュニケーション(ロ)	平田		
	2-第2章	第1節 老化に伴うこころとからだの変化と日常(イ) 第2節 高齢者と健康(ロ)	三浦 丹野		
	2-第3章	第1節 認知症を取り巻く状況(イ) 第2節 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 第3節 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 第4節 家族への支援(ロ・ハ・ニ)	星		
	2-第4章	第1節 障害の基礎的理解(イ) 第2節 障害の医学的側面の基礎的知識(ロ) 第3節 家族の心理的理解(ハ)	丹野 三浦		
	テキスト	科目	講師	アシスタント	
	3-第1章	第1節 介護の基本的な考え方 第2節 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 第3節 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	本郷		
	3-第2章	第1節 生活と家事	遠藤		
	3-第3章	第3節 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向け た介護 2	阿部	高橋(朝)	

		3-第2章	第2節 快適な住環境整備と介護	熊田	高橋・片平	
		3-第3章	第1節 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	松田	佐藤	
		3-第3章	第2節 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		岩佐	
		3-第3章	第4節 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	平田	本郷	
		3-第3章	第5節 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	鈴木	中村	
		3-第3章	第6節 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	佐藤	本郷	
		3-第4章	第1節 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	齋藤	高橋(朝)	
		3-第5章	第1節 専門性を活かした介護過程の展開	高野	/	
		3-第5章	第2節 総合生活支援技術演習	佐藤		本郷
		3-第5章	振り返り	高橋		/
			就業への備えと研修修了後における継続的な研修	佐藤		
			修了試験	佐藤		
			閉校式			
		<p>科目別特徴</p> <p>座学: 専門講師による科目毎の説明</p> <p>※科目についてはカリキュラムに記載。</p> <p>演習の場合は、実技内容・備品、指導体制</p> <p>演習: 実際の福祉用具を活用してのグループ毎の実演。</p>				
	(通信)	<p>&lt;実技内容&gt;</p> <p>・排泄・食事・移乗・入浴介助方法。</p> <p>&lt;備品&gt; ベッドおよび関連一式、車いす、杖、歩行器、ポータブルトイレ、浴槽他入浴用具</p> <p>科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間</p> <p>指定通信科目、1日2～3時間程度は自宅で学習しましょう。</p> <p>通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題</p> <p>・テキスト: 財団法人介護労働安定センター「介護職員初任者研修テキスト」</p> <p>・通信課程講師による添削と質問書等による指導。</p>				
	終了評価	<p>修了評価の方法、評価者、再履修等の基準</p> <p>全ての講義を履修し、全ての実技の出席と全ての実習の終了を以て研修の終了を認定する。通信レポートについてはABCの3段階で評価を行い、C判定者についてはレポートの再提出を求めるなどの対応を図る。また、修了式を行い、「修了証書」及び「修了証明書(携帯用)」を授与する。</p>				
講師情報	添削講師 ・鈴木圭(現)理学療法士…老健アルカディアウエル					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後藤美穂(現)介護福祉士…社会福祉法人グリーンコープ</li> <li>・米満市子(現)介護福祉士…社会福祉法人グリーンコープ</li> <li>・津奈木悦子(現)介護福祉士…デイサービスセンターゆるりの家・水俣</li> <li>・江熊律子(現)介護福祉士…社会福祉法人グリーンコープ</li> <li>・時枝次子(現)介護福祉士…社会福祉法人グリーンコープ</li> <li>講義・演習</li> <li>・佐藤真希子(現)介護福祉士…デイトレ生活相談員</li> <li>・窪田慎吾(現)介護支援専門員…在宅介護支援センター管理者</li> <li>・中村玲子(現)看護師…ささえ愛山元理事長</li> <li>・三浦千賀子(現)看護師…やまもと訪問看護ステーション管理者</li> <li>・岩佐朱貴(非現)介護福祉士</li> <li>・阿部和弘(現)聖和短期大学・介護福祉学科教員</li> <li>・平田敦子(現)介護福祉士…特別養護老人ホーム介護員</li> <li>・丹野京子(非現)看護師…元菅原学園講師</li> <li>・星ゆみ子(現)看護師…にこにこケア介護支援専門員</li> <li>・本郷さやか(現)介護福祉士…デイトレセンター主任</li> <li>・高野梢(現)介護福祉士…ささえ愛山元介護員</li> <li>・熊田康弘(現)福祉用具専門相談員…ダスキンヘルスレント名取</li> <li>・松田光太郎(現)コープ管理者</li> <li>・鈴木まさよ(現)介護福祉士…にこにこケアサービス介護員</li> <li>・斎藤一恵(現)看護師…デイサービスえん管理者</li> <li>・渡邊亜矢子(現)社会福祉士・介護支援専門員…ユースポデイトレセンター</li> <li>・高橋朝弥(現)社会福祉士・介護支援専門員…居宅介護支援ランディング</li> </ul>
実績情報	<p>過去の研修実施回数(年度ごと)</p> <p>2012年度 1回開催しました(宮城県亘理郡山元町)</p> <p>2013年度 1回開催しました(福島県新地町)</p> <p>過去の研修延べ参加人数(年度ごと)</p> <p>2012年度 参加人数15名(宮城県亘理郡山元町)</p> <p>2013年度 参加人数20名(福島県新地町)</p>
連絡先等	<p>申し込み・資料請求先</p> <p>本研修担当者:佐藤真希子 電話: 0223-36-9232 まで</p> <p>法人の苦情対応者名・役職・連絡先</p> <p>齋島一臣・事務局長・電話:022-748-6336まで</p> <p>事業所の苦情対応者名・役職・連絡先</p> <p>ユースポーツライフ担当佐藤真希子・電話:0223-36-9232 まで</p>
質を向上させるための取り組み	<p>研修生満足度調査情報(アンケート、研修生の声など)</p> <p>研修終了時にアンケート実施を予定しています。</p>

## シラバス（介護職員初任者研修互理教室） 演習・通信

### 1. 職務の理解（6時間）

目的	研修に先立ち、これからの介護がめざすべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
1. 多様なサービスの理解（通学3時間）担当講師：窪田慎吾	
添削課題番号	なし
講義内容	介護という職業について、介護保険制度下の在宅（居宅）サービス、および施設サービスの内容を中心とし、その他の福祉サービスについても解説する。
指導の視点・展開例	研修課程全体構成と相互の関連性がイメージできるようにし、効率的、効果的に学習できるような素地の形成を促す。 講義を踏まえ、施設の紹介映像などを利用して理解を深める。受講生の見学・訪問の体験談・感想などの発表を行う。施設の種類を一覧表にまとめてみる。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	修了評価はなし
2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解（通学3時間）担当講師：窪田慎吾	
添削課題番号	なし
講義内容	居宅および施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを解説する。ビデオ映像なども活用する。
指導の視点・展開例	講義を踏まえ、介護者の働く現場の紹介を、映像等を通して理解を深める。 受講生の介護体験を語らせ、「介護観」を分かち合う。 介護サービスの内容を一覧表にまとめてみる。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	修了評価はなし

## 2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）※通信 7.5 まで

目的	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。 自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解する。
1. 人権と尊厳を支える介護（通学 1.5 時間、通信 3 時間）担当講師：中村玲子・添削：津奈木悦子	
添削課題番号	問 01～問 06
講義内容	介護サービスの利用者の人権の尊重や尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーションなどの理論、身体拘束禁止や、個人情報保護などについて解説する。映像なども活用する。
指導の視点・展開例	「高齢者のための国連原則」「高齢化に関する世界行動計画」を、全員で読み上げるなど、理解を促す。 受講生が身近に感じる偏見や差別について意見を出し合う。 高齢者、障害者とその家族への偏見や差別の具体例をもとに、グループディスカッションを行う。 事例の検討を通し、高齢者、障害者のこころの変化、ノーマライゼーションの実践を理解する。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	虐待の定義、身体的拘束およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。
2. 自立に向けた介護（通学 1.5 時間、通信 3 時間）担当講師：中村玲子・添削：津奈木悦子	
添削課題番号	問 07～問 09
講義内容	利用者の自立・自律支援、残存能力の活用、自己表現の支援など、自立に向けた介護の在り方、介護予防について解説する。
指導の視点・展開例	具体的な例を示し、自立支援・介護予防という考え方に基いたケアについて考え、自立の概念に対する気づきを促すために、質疑応答やグループディスカッションを行う。 生きがいや尊厳、自立支援の理念を理解する。 施設利用者の心の変化、施設の取り組みに依る生きる意欲を引き出す支援について学ぶ。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。

### 3. 介護の基本（6時間）※通信3時間

目的	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づく。 職務におけるリスクとその対応策の内、重要なものを理解する。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事が出来る。
1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携（通学0.5時間、通信0.5時間） 担当講師：岩佐朱貴・添削：津奈木悦子	
添削課題番号	問10～問13
講義内容	地域包括ケアの方向性、重度化防止、多職種からなるチームケアの重要性について解説する。
指導の視点・展開例	可能な限り具体例を示す等、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 介護の理念、専門職の7つの条件を基本に、体系的な理解を促す。 多職種で情報共有することが利用者にとってどのようなメリットをもたらすかについてグループディスカッションを行うなど意見を出し合う。 事例紹介により、看護師、介護職員、栄養士、理学療法士が果たした役割について質疑応答などで出しあってみる。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	介護のめざす基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
2. 介護職の職業倫理（通学0.5時間、通信1時間） 担当講師：岩佐朱貴・添削：津奈木悦子	
添削課題番号	問14～問16
講義内容	介護職の基本となる倫理、社会的責任、プライバシーの保護、利用者の主体性の尊重などについて解説する。
指導の視点・展開例	4に記載。
評価ポイント	介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
2. 介護における安全の確保とリスクマネジメント（通学1時間、通信1時間） 担当講師：岩佐朱貴・添削：津奈木悦子	
添削課題番号	問17～問19
講義内容	介護における安全性の確保、事故予防、安全対策、感染の原因や経路の遮断等、リスクマネジメント全般を解説する。
指導の視点・展開例	4に記載。
評価ポイント	生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
4. 介護職の安全（通学1時間、通信0.5時間） 担当講師：岩佐朱貴・添削：津奈木悦子	
添削課題番号	問20～問22
講義内容	介護職自身の健康管理、ストレスマネジメント、腰痛予防、その他、健康管理全般の知識、対策法について解説する。
指導の視点・展開例	2～4に関して、講師の体験事例から、具体的な場面での対応について話し合ってみる。 感染症予防対策を踏まえた手洗いやうがいの方法を演習してみる。 感染症予防対策用具の使い方を学ぶ。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。





#### 4. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携（9時間）※通信 7.5時間まで

講師：渡邊亜矢子

目的	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要とポイントを理解する。
1. 介護保険制度（通学 1.5 時間、通信 3 時間）	添削講師：渡邊亜矢子・鈴木圭・時枝次子
添削課題番号	問 23～問 27
講義内容	介護保険法創設の歴史、制度の目的、保険制度の基本的なしくみ、介護給付、要介護認定、およびケアマネジメントなどについて解説する。
指導の視点・展開例	介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。利用者の生活を中心に考えるという視点に立った理解を深める。 受講生在住地域の介護保険パンフレット等を収集し、内容に関する質疑応答を行う。「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	生活全体の支援の中で介護保険の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 介護保険制度の理念と財源構成、保険料負担について列挙できる。 ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
3. 医療との連携とリハビリテーション（通学 0 時間、通信 1.5 時間）	添削講師：渡邊亜矢子・鈴木圭・時枝次子
添削課題番号	問 28～問 32
講義内容	医療と看護、介護の役割、連携、リハビリテーションの概念を解説する。
指導の視点・展開例	リハビリテーションの現場に関わるスタッフの役割について理解する。 リハビリに必要な福祉用具を映像や現物で紹介する。
評価ポイント	医療行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医療行為などについて列挙できる。
4. 障害者自立支援制度およびその他制度（通学 1.5 時間、通信 1.5 時間）	添削講師：渡邊亜矢子・鈴木圭・時枝次子
添削課題番号	問 33～問 37
講義内容	障害者総合支援法、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業などについて解説する。
指導の視点・展開例	高齢障がい者の生活を支えるための基本的な考え方に基づき、代表的な福祉サービスや、権利擁護・成年後見の制度の目的を理解する。 高齢者や障害者を支える制度にはどのようなものがあるか、すべてを一覧表にまとめ、全体を把握できるようにする。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	高齢障がい者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的・内容について列挙できる。

## 5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）通信3時間 担当講師：平田敦子

目的	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人一人異なることを理解し、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識する。 初任者として最低限の取るべき行動、とるべきではない行動を理解する。
1. 介護におけるコミュニケーション（通学1.5時間、通信1.5時間） 添削講師：渡邊亜矢子・鈴木圭・時枝次子	
添削課題番号	問38～問41
講義内容	介護におけるコミュニケーションの意義、傾聴、共感などの具体的な技法、利用者や家族とのかかわり方、信頼関係形成の方法を解説する。
指導の視点・展開例	利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることの気づきを促す。 トレーニングワークの実践でコミュニケーション技術の基本を習得する。 利用者や家族との信頼関係形成のためのグループディスカッションを行い、感想を発表する。
評価ポイント	共感・需要・傾聴的態度・気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
2. 介護におけるチームのコミュニケーション（通学1.5時間、通信1.5時間） 添削講師：渡邊亜矢子・鈴木圭・時枝次子	
添削課題番号	問42～問45
講義内容	介護における観察・記録の重要性、チーム内での情報の共有化、個別援助計画書、ヒヤリハット報告など、5W1Hの意義、ケアカンファランスの重要性を解説する。
指導の視点・展開例	チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人一人の理解が必要であることへの気づきを促す。 教科書の事例を検討し、チームにおける各介護職を結ぶ「記録」の重要性を学ぶ。 ケアカンファランスでの報告がその後のサービスに役立った事例を紹介し、報告資料を見て実感を養う。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

## 6. 老化の理解（6 時間）※通信 3 時間 担当講師：三浦千賀子

目的	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。
1. 老化に伴うところとからだの変化と日常（通学 1.5 時間、通信 1.5 時間） 担当講師：三浦千賀子・添削：米満市子	
添削課題番号	問 46～問 48
講義内容	老化に伴う心身の機能の変化、日常生活への影響について、身体機能や精神的機能の変化を中心に解説する。
指導の視点・展開例	老化に伴う心身の変化の特徴を理解し、日常生活への影響に気づく。 加齢によって起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出してみる。 加齢とともに起きるところとからだの変化の一覧表作りなどを行い、理解を深める。高齢であっても能力が高まる事例の紹介も交え、理解の偏りがないように配慮する。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	加齢、老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。
2. 高齢者と健康（通学 1.5 時間、通信 1.5 時間） 担当講師：丹野京子・添削：江熊律子	
添削課題番号	問 49～問 51
講義内容	高齢者のかかりやすい疾病、日常生活面での注意点、循環器障害と対策、うつ病等の精神疾患、誤嚥、肺炎などについて解説する。
指導の視点・展開例	高齢者に多い疾病の症状やその対応における留意点を学び、介護において生理的側面の知識を身に付けることの必要性への気づきを促す。 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点を一覧表などにまとめてみる。 日々の利用者の健康管理の方法についての話を聞いて見聞を深める。 「ふりかえり」を書いて、学習内容をまとめる。
評価ポイント	高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

## 7. 認知症の理解（6時間）通信3時間

目的	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。
1. 認知症を取り巻く状況（通学0.5時間、通信1時間）	担当講師：星ゆみ子・添削米満市子
添削課題番号	問52、問53
講義内容	認知症ケアの理念であるパーソンセンタードケア、認知症ケアの視点を解説する。
指導の視点・展開例	認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することへの必要性への気づきを促す。
評価ポイント	認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理（通学0.5時間、通信0.5時間）	担当講師：星ゆみ子・添削：江熊律子
添削課題番号	問54～問56
講義内容	認知症とは何かを、原因とその病態、原因疾患別ケアの方法、健康管理の方法、治療方法を解説する。
指導の視点・展開例	認知症を医学的側面から理解する。 認知症評価スケールを実際に使い体験してみる。 様々な認知症の症状に対し、どのようなケアが考えられるかグループごとに考えてみる。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（通学1時間、通信0.5時間）	担当講師：星ゆみ子・添削米満市子
添削課題番号	問57～問60
講義内容	認知症による生活障害、心理・行動の特徴、心理状態、不適切なケアについて、また一方で適切なケアの具体的な方法、コミュニケーションの方法、認知症の進行に合わせたケアの方法を解説する。
指導の視点・展開例	認知症の中核症状や周辺症状を知り、認知症の利用者への対応を理解する。 具体的なケースにより、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。 認知症の原因疾患別の中核症状と周辺症状の一覧表などを作成して理解を深める。 非言語コミュニケーションの活用方法をおさらいして実践してみる。
評価ポイント	認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、及びそれに影響する要因を列挙できる。 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、及び介護の原則について列挙できる。また同様に若年性認知症の特徴についても列挙できる。 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的なかかわり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
4. 家族への支援（通学1時間、通信1時間）	担当講師：星ゆみ子・添削米満市子
添削課題番号	問61～問63
講義内容	認知症の利用者の家族とのかかわり、援助方法、介護負担の軽減方法（レスパイトケア）について解説する。
指導の視点・展開例	認知症の利用者家族への支援方法へ理解を深める。 事例をもとに、レスパイトケアについてグループ討議等を行う。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。

評価ポイント	家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる。
--------	-------------------------------

## 8. 障がいの理解（3時間）※通信 1.5時間 担当講師：丹野京子

目的	障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
1. 障害の基礎的理解（通学 1 時間、通信 0 時間）	
添削課題番号	なし
講義内容	障害の概念、ICFの考え方、ノーマライゼーションについて解説する。
指導の視点・展開例	介護において障害の概念と ICF を理解しておくことの必要性の理解を促す。 展開例は 3 に記載。
評価ポイント	障害の概念と ICF について概説できる。
2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援の基礎的知識（通学 1 時間、通信 0 時間）	
添削課題番号	
講義内容	身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身障害について解説する。
指導の視点・展開例	高齢者の介護との違いを念頭に置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。 展開例は 3 に記載。
評価ポイント	障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
3. 家族の心理、かかり支援の理解（通学 1 時間、通信 0 時間）担当講師：三浦千賀子	
添削課題番号	なし
講義内容	利用者の家族への支援方法、介護負担の軽減について解説する。
指導の視点・展開例	利用者家族への支援方法や、介護負担の軽減についての理解を促す。 ICF の手法のおさらいをし、具体的な障害の事例をもとに分類手法を使った分析を行ってみる。 受講生がペアを組み、視覚障害者の歩行介護の体験や筆談コミュニケーションを行ってみる。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

## 9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）※通信 12 時間

目的	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。 安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> <p>基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、介護施設及び居宅介護事業所での見学・実習を行う。最後に事例に基づく総合的な演習を行う。</p>
1. 介護の基本的な考え方（通学 1 時間、通信 2 時間）担当講師：本郷紗弥香・後藤美穂	
添削課題番号	問 74～問 76
講義内容	ICF に基づく介護の理論、法的根拠に基づく介護について解説する。
指導の視点・展開例	<p>サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活充足を提供し、かつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。</p> <p>求められている介護者像をグループで話し合い、発表し合う。</p> <p>利用者主体の介護について、良い例・悪い例を出し合い、ディスカッションする。</p> <p>「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
評価ポイント	要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解（通学 1 時間、通信 2 時間） 担当講師：本郷紗弥香・後藤美穂	
添削課題番号	問 77～問 81
講義内容	介護の実践に必要な人間のこころのしくみの基礎的理解、感情や意欲、生きがい、こころとからだの密接な関係性を解説する。
指導の視点・展開例	<p>介護実践に必要なこころのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材等を使って理解を促す。</p> <p>「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
評価ポイント	人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付けて概説できる。
3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解（通学 1 時間、通信 2 時間） 担当講師：本郷紗弥香・後藤美穂	
添削課題番号	問 82～問 86
講義内容	人体の各部の名称、機能に関する基礎知識全般を解説する。
指導の視点・展開例	介護実践に必要なからだのしくみの基礎的な知識を、介護の流れを示しながら視聴覚教材等を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
評価ポイント	人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。
4. 生活と家事（通学 6 時間、通信 0 時間） 担当講師：遠藤小百合 担当講師：本郷紗弥香	
添削課題番号	なし
講義内容	生活と家事の理解、生活援助の実践方法、利用者の主体性、能動性を引き出す自立支援の方法を解説する。
指導の視点・展開例	<p>利用者にとって生活の充足を提供するうえで不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。</p> <p>利用者を想定して、家事サービスの内容をグループワークで討議する。</p> <p>「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
評価ポイント	生活援助に関する基礎的な知識と生活支援方法について概説できる。
5. 快適な住環境整備と介護（通学 6 時間、通信 0 時間） 担当講師：熊田康弘	
添削課題番号	なし
講義内容	高齢者、障害者の日常生活に適合する居住環境整備、バリアフリー、住宅改修、福祉用

	具について解説する。
指導の視点・展開例	快適な居住環境を整備するための知識や福祉用具の使い方への理解を促す。 快適な住環境を整備するための知識や福祉用具を、映像・資料等で紹介する。 高齢者体験セットなどで高齢者や障害者の不自由さを体験し福祉用具の必要性を理解する。「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点・支援方法について概説できる。
6. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（通学6時間）担当講師：松田光太郎	
添削課題番号	なし
講義内容	身体状況に合わせた衣服の選択、着脱の方法、身支度、整容方法、洗面の方法について解説し、実技指導を行う。
指導の視点・展開例	実技演習にて着脱介助の理解を深める。 クラスをグループに分け、練習ではペアを組む。 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行動、洗面の方法の模範演技、反復練習を行い、習得度の確認を行う。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（通学6時間） 担当講師：松田光太郎	
添削課題番号	なし
講義内容	移動・移乗に関する知識、安全安楽な姿勢保持の方法、ボディメカニクスの実践方法、車いすの操作方法、車いすへの移乗方法、杖歩行の支援や、歩行補助具の使用法などを解説し、実技指導を行う。
指導の視点・展開例	実技演習にて移動・移乗介助の理解を深める。 クラスをグループに分け、練習はペアを組む。 ベッド上での体位交換、起居動作、ポータブルトイレや車いすへの移乗方法、車いすの基本的操作方法、移動用具、ボディメカニクスの応用、重心・重力の置き方、残存能力の活用の仕方などについて講師が模範演技、反復練習を行い、習得度確認を行う。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車椅子、杖などの基本的な使用方法を概説できる。 移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（通学6時間）担当講師：阿部和弘	
添削課題番号	なし
講義内容	食事介助の方法、食事と健康、嚥下のメカニズム、誤嚥防止、福祉用具の活用方法、介護食などについて解説し、実技指導を行う。
指導の視点・展開例	実技演習にて食事介助の理解を深める。 クラスをグループに分け、練習はペアを組む。 各自に紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、歯ブラシ、食材等をいくつか持参させて、実践的は食事介助の練習を行う。 介護食材、トロミ材を用意し、試食する。 食事介助の基本方法を講師が模範演技し、反復練習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。 映像などで嚥下のメカニズムを学習し、利用者の状況に合わせた食事介助の方法を模範演技し、反復練習を行い、習得度確認を行う。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙できる。

	食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
10. 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（通学6時間） 担当講師：平田敦子	
添削課題番号	なし
講義内容	入浴の介助方法、清潔保持の目的、手浴・足浴・洗髪、陰部洗浄、清拭方法等について解説し、実技指導を行う。
指導の視点・展開例	実技演習にて全身清拭や部分浴の理解も深める。 クラスをグループに分け、練習はペアを組む。 入浴、清潔保持に必要な様々な入浴用具、整容用具を紹介する。 全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパッドの作り方、ベッドの設営方法、室内環境の整え方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技し、実践練習を行う。 目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ。 洗髪方法を学ぶ。 ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ。 羞恥心、尊厳を守る環境整備、声掛け、気遣いの方法を学ぶ。 繰り返し練習を行い、練習を通して習得度を確認する。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙できる。 入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
11. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（通学6時間） 担当講師：鈴木まさよ	
添削課題番号	なし
講義内容	おむつ交換など排泄介助の方法、ポータブルトイレなど排泄用具の使用方法、プライバシーや心理的負担への配慮、尊厳の保持、トイレ介助などについて解説し、実技指導を行う。
指導の視点・展開例	実技演習にて排泄の方法等の理解を深める。 クラスをグループに分け、練習ではペアを組む。 排泄環境整備の方法、排泄用具を紹介する。 おむつやパッドの吸収ポリマーの交換方法等を学ぶ。 ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ。 ベッド上でのおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ。 男性と女性の違いによる排泄介助のコツを学ぶ。 ベッドからトイレへの誘導、介助の方法を学ぶ。 羞恥心、尊厳を守る環境整備、声掛け、気遣いの方法を学ぶ。 繰り返し練習を行い、練習を通して習熟度を確認する。 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。
評価ポイント	排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備、関連した用具を列挙できる。
12. 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（通学2.5時間通信3時間） 担当講師：佐藤真希子・高橋朝弥・後藤美穂	
添削課題番号	課題
講義内容	睡眠の知識、安眠のための環境整備、ベッドメイキング、褥瘡予防について解説し、実技指導を行う。
指導の視点・展開例	実技演習にてベッドメイキングや体位交換の理解を深める。 クラスをグループに分け、練習ではペアを組む。 快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する。 睡眠のメカニズムを学ぶ。 ベッドの構造、機能、操作方法を学ぶ。 ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ。



	<p>ベッドメイキング方法を学ぶ。  繰り返し練習を行い、練習を通して習熟度を確認する。  「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
評価ポイント	<p>睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙できる。  体位交換の意味と関連する用具の基本的使用方法や機能などを概説できる  体位交換に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</p>
<p>13. 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護（通学4時間・通信3時間）  担当講師：斎藤一恵・後藤美穂</p>	
添削課題番号	課題
講義内容	終末期に関する知識、死に至る過程、介護従事者の心構え、基本的態度について解説する。
指導の視点・展開例	<p>「死」に向かう生の充実と尊厳ある「死」について考えることができるように身近な事例からの気づきを促す。  尊厳ある「死」についてグループワークで考え、介護職の役割の理解を深める。  事例を示し、利用者本人や家族に対してできることをアドバイスする。  「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
評価ポイント	ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や多職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。
<p>13. 介護過程の基礎的理解（通学5時間）担当講師：高野梢</p>	
添削課題番号	なし
講義内容	様々な介護事例を通して介護の目的、計画に沿ったサービス提供の重要性、具体的な展開方法、チームアプローチなどについて解説する。
指導の視点・展開例	<p>具体的な事例を通して介護過程の流れ、専門性を理解する。  生活の各場面での介護について、想定した利用者について一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。  「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</p>
評価ポイント	介護過程を展開していくうえでの視点を列挙できる。
<p>14. 総合生活支援技術演習（通学5時間）担当講師：佐藤真希子</p>	
添削課題番号	なし
講義内容	利用者の具体的な事例を課題として、学習した介護技術を実践的に学ぶ。
指導の視点・展開例	<p>利用者の状況に応じて介護計画を立案できるようになるよう促す。  2事例を準備し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルを確認し、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う。</p>
評価ポイント	介護計画を立案し、介護手順に応じた技術を習得している。

#### 14. 振り返り（4時間）通信0

目的	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。 終業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。
1. 振り返り（通学2時間）担当講師：高橋朝弥	
添削課題番号	なし
講義内容	研修全体を体験学習（施設とデイサービスでの実習）も含めて振り返り、学習の習得状況を確認する。今後継続して学習すべきことは何かを把握して、就業していくための準備と継続的な学習の指針を得る。介護職の具体的なイメージを描いて、科目ごとに理解不十分な点の見直しと学習を行い、さらに習得を深めていくよう指導する。
2. 就業への備えと研修終了後における継続的な研修（通学2時間）担当講師：佐藤真希子	
添削課題番号	なし
講義内容	介護職員としての日々の仕事内容や体験談、ご利用者とのかかわり方、就業やその後の介護の学習、自己研鑽の心得、目標、ステップアップの方向性、キャリアアップの制度としくみなどについて指導する。

(1) 学則

公益財団法人 共生地域創造財団 亶理町講座  
介護職員初任者研修学則等

一、開講目的

高齢者等が安心して介護サービスを受けられるよう、基本的な知識及び具体的な技術について習得し、そのことによって地域において、良質なホームヘルプサービスを提供できるようにすること。

二、研修事業名称

公益財団法人 共生地域創造財団 介護職員初任者研修・亶理講座

三、実施主体

〒982-0003 宮城県仙台市太白区郡山5丁目6番2号

TEL (022) 748-6336 FAX (022) 748-6336

四、担当事業所

〒989-2301 亶理町逢隈中泉字沼添75-1

株式会社ユースポーツライフ・ユースポ亶理デイトレセンター

TEL (0223) 36-9232 FAX (0223) 36-9233

五、実施場所

講義：

(第1会場) 株式会社ユースポーツライフ 名取

(第2会場) 株式会社ユースポーツライフ・ユースポ亶理デイトレセンター

演習：

(第1会場) 株式会社ユースポーツライフ 名取

(第2会場) 株式会社ユースポーツライフ・ユースポ亶理デイトレセンター

実習：受講者の居住地近隣の施設等

六、研修期間 2014年11月14日から2014年12月17日

七、事業の実施地域

亶理町、岩沼市、山元町、宮城県亶理郡山元町・岩沼市を対象に受講生を募集する。

八、研修カリキュラム

宮城県が定めた「宮城県介護職員初任者研修事業実施要項」に基づくカリキュラム別紙(様式4)に基づくカリキュラム参照。

九、補講

所定のカリキュラムの受講を欠席した場合、同一カリキュラムの補講を受けさせ、その確認を以て修了とする。

補講費用：1日5000円を別途徴収します。

十、講師氏名 別紙一覧表

十一、研修終了の認定方法

全ての講義を履修し、全ての実技の出席と全ての実習の終了を以て研修の終了を認定する。通信レポートについてはA B Cの3段階で評価を行い、C判定者についてはレポートの再提出を求めるなどの対応を図る。また、修了式を行い、「修了証書」及び「修了証明書（携帯用）」を授与する。

全ての講義及び実技を履修後、筆記試験による修了評価を行い、おおむね7割以上の理解度を目安に修了の認定を行う。基準に達しない受講生に対しては補講などの対応をする。通信レポートについてはA B Cの3段階で評価を行い、C判定者についてはレポートの再提出を求めるなどの対応を図る。また、修了式を行い、「修了証書」及び「修了証明書（携帯用）」を授与する。

十二、開講時期 2014年11月14日

十三、受講手続き 平成26年10月10日～10月31日の間で以下まで電話にて申し込む。

〒989-2301 亶理町逢隈中泉字沼添75-1

株式会社ユースポーツライフ・ユースポ亶理デイトレセンター

TEL (0223) 36-9232 FAX (0223) 36-9233

十四、募集定員 20名

十五、受講料 就労支援の一環として受講料は、テキスト代6,069円(税込み)＋講習費：3,931円

テキスト財団法人 介護労働安定センター「介護職員初任者研修テキスト」

十六、研修内容・実習日程（総時間数：130時間）

講義： 94時間

通信教育：36時間

十七、受講資格

研修の目的に同意し、受講を希望する人。

亶理町・山元町・岩沼市在住の方。

十八、受講の取り消し

所定のカリキュラムの受講が困難で補講もできない場合、また受講の態度に著しく問題があると主催者が認めた場合は、受講を取り消すことができる。その場合、受講料の返金は行なわない。

十八、通信学習の実施方法

(イ) 学習方法 3回の添削レポートの提出と面接指導。面接指導は座学の中で行なう

(ロ) 評価方法 各レポート100点満点としA、B、Cの3段階評価を行い、AB評価の者(7割以上の得点)を修了の認定とする。尚、C判定者については最終〆切日までにレポートの再提出を求める。

(ハ) 個別学習への対応方法

添削レポートに質疑欄・講評欄を設け、その応答で添削指導とする。

十九、修了証明書の交付及び修了者の管理

宮城県介護職員初任者研修実施要綱に基づき、修了証明書を交付する。

修了者については研修の課程、修了証明書番号、修了年月日、氏名、生年月日、必要事項を記載した名簿を作成し、管理、保存する。

二十、補足：①受講生の本人確認については、受講申し込み時に身分証明書（保険証・免許証等）にて確認を行う。

②また、毎回講義演習前に出席を確認し、本人確認を行う。

以上